令和６年度　板橋区国際交流連絡会　会議録	
会議名	板橋区国際交流連絡会
開催日時	令和７年３月 13 日（水）　16 時 00 分から 17 時 00 分
開催場所	区役所２階　人材育成センター
出席者	11 名 区　　　長　　　　　坂本　健（会長） 区議会議長　　　　　田中　やすのり（会長代理） 区議会副議長　　　　しば　佳代子 自民党代表　　　　　山田　たかゆき 公明党代表　　　　　いがらし　学 民主クラブ代表　　　中妻　じょうた 共産党代表　　　　　荒川　なお 副区長　　　　　　　尾科　善彦 教育長　　　　　　　長沼　豊 区民文化部長　　　　平岩　俊二 区議会事務局長　　　五十嵐　登 【幹　事】 文化・国際交流課長　小林　晴臣 環境政策課長　　　　河野　雅彦 指導室長　　　　　　冨田　和己 中央図書館長　　　　松崎　英司 区議会事務局次長　　舟山　百合子 （公財）板橋区文化・国際交流財団事務局長　　大橋 薫
会議の公開	公開（傍聴できる）
傍聴者数	１名
会議次第	１　区長あいさつ ２　連絡事項 資料１　海外姉妹友好都市との交流事業 資料２　イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 資料３　多文化共生事業について 資料４　中央図書館・いたばしボローニャ絵本館の事業展開について 資料５　熱帯環境植物館・ペナン植物園との友好提携 30 周年記念事業 「マレーシア・ペナンフェア」について 資料６　板橋区中学生海外派遣事業

参考資料	バーリントン市姉妹都市提携35周年記念板橋区公式訪問団派遣報告書 バーリントン市姉妹都市提携35周年記念バーリントン市公式訪問団受入報告書 ペナン植物園との友好提携に関する共同声明30周年記念公式訪問団派遣報告書 板橋区国際化の現況　令和６年度
会議録	司　会 　進行あいさつ 　会議公開の旨、会議は要点記録とする旨確認 区　長（会長） 　開会あいさつ 司　会 　資料確認 区　長（会長） 　すべての案件を一括して連絡会幹事よりご説明を願う。 文化・国際交流課長 　資料１～資料３を説明 中央図書館長 　資料４を説明 環境政策課長 　資料５を説明 指導室長 　資料６を説明 区　長（会長） 　質問や意見をどうぞ。 --- 委　員 　４点ある。 　１点目はドナルド・トランプ氏のアメリカ合衆国大統領就任以降の多文化共生、多様性に反対的な姿勢が広がる中での板橋区の立場はどうか。 　２点目は外国人児童・生徒の増加に伴う教育面での対応はどうか。 　３点目は英語学習において、いまだにネイティブ発音をする生徒を揶揄する雰囲気がある。英語学習姿勢の醸成についての教育委員会としての認識はどうか。 　４点目は「絵本のまち板橋」の認知度が不十分と考える。今後の国内外に向けたプロモーションはのどのようになっているか。 文化・国際交流課長

	１点目について、区においても直近の国際情勢を注視している。区としては、引き続き多文化共生を重要な視点と考えている。外国人住民が増加している中で受け入れるという意識の醸成が必要だと考えている。一方で、増加に伴って外国人住民のマナー面などの問題も指摘されている。そういった方々に対してマナーや日本の文化などを理解していただくことを推進していく必要があると考えている。 指導室長 　２点目及び３点目について、外国にルーツを持つ児童や生徒の増加は認識している。具体的な対応としては、ことば支援員の配置や翻訳ツールの導入などを特に外国籍の児童生徒が多いところを中心に進めていく。 　また、ネイティブ発音に対する雰囲気についても、教育委員会としては、多様性をキーワードとして、子供たちの主体性を育んでいくことにアプローチしている。 文化・国際交流課長 　４点目について、絵本のまちは現在進めているいたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2030 においても重点目標に設定する予定である。対外的にも美術館や中央図書館を中心に PR をしていき、東京で一番住みたくなるまちを目指していく。 委　員 　資料１について、友好都市との周年の報告書の記述について、すべての場面においてとまではいかないが、式典の際に相手方の市長などが板橋区側に対しどのような言葉をかけてくれたのか、それに対してどのように返したのかなどはより詳しく記述する方がよいと考える。 文化・国際交流課長 　紙面の都合上、要点の抽出になっているが、指摘の通り、表敬訪問などの場面については、より具体的な記述にする必要があると考える。 委　員 　資料２について、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展について、素晴らしい展覧会だと思うが、美術館の交通の便が悪く、子連れにはハードルが高いと思う。 　提案だが、ラッピングバスを区内で走らせたり、子連れで来ても子どもを預けることができたりするとよいと思う。 文化・国際交流課長 　美術館のアクセスの悪さについては、以前から指摘されているところであるが、最近はシェアサイクルのステーションができたりしているので、そういったものを利用していただくことはできると考えている。また、溜池公園や郷土資料館を含めて楽しんでいただきたいと思う。PR を積極的にやり、多くの方に楽しんでいただきたいと考えている。 委　員 　資料３について、日本語ボランティア養成講座や防災語学ボランティア養成講座な

ど受講された方は受講後どのように活躍されているのか。

（公財）板橋区文化・国際交流財団事務局長

日本語教室の講師として活躍されている方が多い。また、次年度の進行役を務めていただくこともある。講座を受けていただいた後の活用を進めていきたいと考えている。

委　員

資料４について、ボローニャ市やサラボルサ児童図書館との交流の中で子どもたちが主体的に活動し、楽しめる事業を増やしていただけるとよいと思う。

中央図書館長

日本語と英語を交互に読み聞かせをする海外絵本の読み聞かせ会だけでなく、子どもに読み聞かせしていただけるよう、保護者の方に英語での読み聞かせの仕方を教える講座などもしている。また、オンラインを活用しながらわらべ歌収集プロジェクト以外にもサラボルサ児童図書館とできることを検討していく。

委　員

私がPTAの会長を務めている緑小学校はユネスコスクールの登録をしており韓国とマレーシアの小学校と交流をしている。学校同士の国際交流などは支援がないと難しいので、そういった連携を進めていただきたい。

委　員

資料３について、影響初級日本語教室の拡大と周知を推進する必要があると考える。また、外国人のための無料専門家相談会が一回だったので、回数や内容をもっと幅広くする必要があると考える。国際情勢が不安定な中で外国人の受入の体制を充実させていく必要があると考える。

（公財）板橋区文化・国際交流財団事務局長

日本語学校は私立等も含めて区内にいくつかあり、近所の日本語教室などを使っている現状がある。また、日本語学校と連絡会を行っており、そのようなところで状況を把握し、進めていく必要があると考える。

外国人のための無料専門家相談会については、板橋区では一回だったが、都内を巡回しているサービスの一環となっている。こういったものを適宜活用しながら外国人の相談窓口のサポートをしていきたいと考える。

委　員

多文化共生について、日本語が全く話せない方を小学校・中学校に入れるのではなく、幼稚園などで受け入れ、一緒に遊ぶ中で日本語を覚えてもらった方がよいという話がある。また、日本語ボランティアの方に対する支援をより大きく展開していただきたい。

（公財）板橋区文化・国際交流財団事務局長

	ご指摘のとおり、日本語が全く話せないで入国するケースが増えている状況であると認識している。こういった状況を鑑みて、数に対応するだけではなく、内容をおさえていかなければならないと考えている。具体的には、文法中心の教材から日常会話に近い簡単なやり取り中心の教材に変えていこうと検討を始めているところである。 会　長 他に質問や意見がないようなので終了とする。 様々なご意見を賜りお礼申し上げる。 今後も国際交流・多文化共生の推進に取り組んでいく。
所管課	区民文化部　文化･国際交流課　　　　　　　　　　（電話 3579‐2018）